

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600689	事業の開始年月日	令和4年4月1日
		指定年月日	令和4年4月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜三ツ沢公園		
所在地	(〒240-0062) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町288-30		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年12月12日	評価結果 市町村受理日	令和6年7月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常においては、健康面に配慮し、体操など身体を動かせる機会を多く提供しております。その一方で、ご利用者様の思いを大切に、日々お過ごしいただけるよう努めております。
毎月、季節に応じた行事を開催しています。
利用者様どうしのつながりを大切にしています。
今はコロナ禍で中々、地域との関りや繋がりが出来てはいませんが、出来る範囲で行っていきたくと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月21日	評価機関 評価決定日	令和6年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、市営地下鉄3号線三ツ沢上町駅から徒歩約15分、または、横浜駅西口よりバス便を利用して、最寄りの岡沢町バス停から徒歩3分ほどの高台にある。事業所からは横浜国立大学のグラウンドが一望でき、春は、事業所からみえる大学の桜を楽しんでいる。また天気の良い日には富士山が望める。事業所の開所と同時期に近隣に有料老人ホームと障害者施設が開設された。
【法人のプログラムを生かした健康増進の取り組み】
現在もコロナ禍で外出制限がある中、利用者の心身の健康を維持する目的で、法人独自の病気予防・健康増進プログラムを複数実施しており、毎日、利用者全員がいずれかのプログラムに参加している。また、同法人の他事業所とオンラインを繋いで、盆踊り、タオル体操、秋の運動会等のイベントを合同で実施している。
【利用者のもつ力を生かした支援】
事業所は利用者が持つ力を生かした共同生活の支援をしている。職員は利用者の長所を見定め、食事の盛り付け、食器洗いや掃除機かけ、洗濯物干しなどの家事の手伝いをお願いして、自助自立を促している。利用者も自ら、積極的に家事に関わり、食器洗いの手伝いは人気で当番制で行うほどである。また、手仕事の得意な利用者を中心に季節飾りを職員と共同で作成している。リモートの運動会を盛り上げる三角の旗を作成し、リビングの天上を飾るなどして楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	GHみんなの家・横浜三ツ沢公園
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	GHみんなの家・横浜三ツ沢公園
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成している。	「ご利用者様・ご家族様・職員が毎日笑顔で安心して過ごせるホーム作り」を事業所の理念として掲げている。理念は、管理者が法人の経営理念のもと、今年度作成した。職員が笑顔を絶やさないことで、利用者からの笑顔を引き出せるように、日々のケアに努めている。理念の共有のための掲示や職員への周知は現在検討中である。	本年度、作成した大切な理念の共有について、工夫が必要です。理念の掲示のほか、毎月の会議の冒頭に「笑顔になるためにはどうしたらよいか」を話し合う時間を設けるなど、理念の周知徹底をして、大切な理念がケアに生かされることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、人員不足で参加できていない。	峰沢町岡沢町内会に加入している。町内会長とも連絡先を交換している。通勤時、町内会掲示板を確認し地域の情報収集を行っている。町内会の行事参加、近隣の有料老人ホーム、障害者施設と連携を検討している。来月には利用者家族による書き初めやチョークアートのボランティアの来訪が予定されている。	町内会へ加入し、地域との連携を着実に進められています。今後も町内会行事に参加をし、交流を深めることを期待します。また近隣施設と連絡を取り合うなどして、災害時の連携にむけて、働きかけることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入しているが、人員不足で参加できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施している。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の活動報告を行っている。事業所オーナー、利用者家族（2～3名）、地域包括支援センター職員などが出席している。今後、町内会長など地域の方の参加を勧めていく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在連携を取れていない。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の参加を通じて連携している。近隣のデイサービスからは、合同での運営推進会議開催の提案を受けている。事故等の報告は横浜市電子申請で行っている。保土ケ谷区の高齢・障害支援課とは報告書の郵送などの連携を検討中である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないために定期的な会議や職員間の声掛けをしている。玄関の施錠は行っているが職員と一緒に出来るようにしている。	身体拘束禁止のための指針を定め、マニュアルを整備している。身体拘束等適正化討議委員会を3ヶ月に1回、身体拘束防止研修を年2回開催している。委員会では法人本部から提示されたテーマを中心に事例をあげて、検討している。研修として、法人が整備したe-ラーニングに取り組み、受講後は、テストの実施やレポートの提出によって、内容の定着を図っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないために定期的に会議を実施している。	虐待防止についての指針を定め、虐待防止マニュアルを整備している。高齢者虐待防止委員会を年4回開催、高齢者虐待防止のための研修を年2回実施している。委員会では法人本部から提示されたテーマを中心に事例をあげて検討している。不適切ケアについては、管理者や職員同士で声掛けあっている。またケア会議で再確認をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をあまり持てていませんが、個々の支援は行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて不安等聞くようにしている。	/	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や、運営推進会議等で聞けるようにしている。	家族の意見・要望は、来訪時や電話連絡、運営推進会議等で把握し、内容をフロア会議で各職員と共有している。現在、予約なしで居室でゆっくり過ごしてもらえるようにしている。日々のケアに対する意見が多く、靴下を脱いでしまう利用者の家族から、靴下を脱いだ時は履かせてほしいとの要望があり、職員間で共有し実践に継げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を行い、提案をいえる機会がある。	職員の意見・提案は、日々の会話のほか、フロア会議やカンファレンスで把握し運営に反映している。各フロアのスケジュール、リフト浴の器具等の物品の共用などは、フロアの実情に合わせて職員間で決定している。管理者は、職員と気兼ねなく話す環境が日々のケアや運営を改善する気づきとなると考え、日ごころからのコミュニケーションを大切に業務にあたっている。個人面談は来年1月に予定されている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの環境、雰囲気大切に し向上心を持って働けるように しています。	スキルアップ支援策として介護支援専門員を有する計画作成者や介護福祉士資格を持つ職員に対して、手当を支給している。また、5年、10年、15年の永年勤続者には、金一封の支給している。法人は、育児休暇、産後休暇、介護休暇制度を整備している。現在、休暇制度を利用者している職員はいない。管理者は、職員が苛立っていると感じた際には、積極的に声をかけるよう心がけ、ストレス緩和に取り組んでいる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々、力量などを配慮しながら 進めています。	法人が年間計画を制定し全職員を対象とした教育・研修を実施している。介護福祉士、介護支援専門員については受験のための学習支援を行っている。初任者研修、実践者研修の費用を支援している。法人は新人職員に対して、実技研修1日、座学研修1日の計2日間の実施し、事業所内では役職者を中心に、OJTを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会等参加できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望むこと過去の生活などを聞き信頼関係を築くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の望むこと過去の生活などを聞きながら信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスなどを行い、必要な支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のお手伝いをしてもらうなどしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携を取り、入居後も一緒に関わっていけるよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらうようにしている。	入居時のアセスメントをもとに馴染みの人や場所を把握している。友人や知人から面会の要望があり、居室での面会を予定している。電話の取り次ぎ、利用者宛に届いた手紙の取り次ぎ、年賀状の投函サポートを行っている。従前より楽しんでいる手仕事を継続している利用者がある。現在は絵を描いており、作品はリビングに掲示されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に過ごせるように会話の橋渡しを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談等行うよう意識しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望や状態を把握しながらご本人に合わせたケアをしています。	従前のケアマネジャーや病院、自宅などを訪問して住環境や生活歴を確認している。日々の何気ない会話から希望を聴き取り、またご家族と相談し要望が実現できるように支援している。意思疎通が困難な利用者の思いや意向は、家族からの情報や利用者の行動、表情から推測し、支援に繋げている。把握した情報は日中の生活記録や申し送りノートなどで共有しケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の大切にしていたものを持ってきていただいたり、ご本人に合わせた環境を家族協力のもと作っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握するため日頃の様子やカンファをを行い、ケアを行っています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人のご希望を聞きながらカンファを行い作成しています。	介護計画書はアセスメントとモニタリングを基に月1回カンファレンスを行って、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。目標は長期1年、短期6ヶ月で見直し、モニタリングは短期目標にあわせ実施している。日々のケアの入力に利用するタブレットの機能を利用し、介護計画のサービス内容とケアの実施状況の連動を図る予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から様子を観察し、職員間の情報共有しケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに応えられるよう職員の技術向上などをして柔軟に対応できる様、取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は家族との関わりのみになっています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診以外でも連携をとりながら適切な医療を受けてます。	協力医療機関の訪問診療は月2回である。24時間オンコール体制をとっている。またネット掲示板を利用し医師と情報を共有している。薬剤師が往診に同行するほか、月4回、来所し配薬している。「服やっくん」を導入し誤薬防止に努めている。法人の看護師が月4回来所し、健康管理を行っている。歯科医が月2回、往診している。また歯科衛生士が月4回来所し、治療、口腔ケアに当たっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、観察をし気づいたら看護師と連携を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係だけではなく、家族とも相談に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、事業所と話し合う場を作り説明をしています。	法人は、看取り介護のマニュアルを整備し、入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明している。看取り期になった場合は医師、管理者より、家族に説明し、看取り介護の同意書を取り交わし、看取り介護計画を作成している。本年は1名の実績がある。現在、看取りの研修を計画中である。今後は看取りの振り返りをフロア会議で行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応ができるように職員間で情報共有をしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練などを行い対策をしている。	夜間想定も含め火災や地震を想定した避難訓練を令和6年1月、3月に予定している。法人はBCPを作成している。法人から災害備蓄として、18名3日分の食料と備品が配布されている。今後、熱源や保温シートなどの寒冷対策、備蓄品のリスト管理を進めていく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するためにコミュニケーションをしっかりと内容など傷つけないことを大切にしています。	利用者の呼称は名字に「さん」付けとしている。排泄、入浴、更衣支援時には、扉やカーテンなどを使用し、プライバシー確保に努めている。職員の対応に気になる点があった際は、その場で管理者が指導している。個人情報保護に努めており、利用者の個人情報を含んだファイルは鍵付きのキャビネットに保管している。またパソコンの使用する際には、パスワードの入力が必須となっている。今後、接遇、プライバシー保護の研修を予定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話し、決めつけせず、自己決定が出来る環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に決定を委ねてその方にあつたケア、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に選ぶ時もどれがいいか確認しながら本人に洋服を選んでいただいたり、汚れたままにしないなど支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けと手伝いをしていただき、職員と一緒にしています。	食事はチルド食材の湯煎して提供している。献立は業者の栄養士が作成している。キッチンがリビングから離れているが、調理時も、職員が必ずひとり、リビングにいて、利用者の見守りができる体制を取っている。利用者は、食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどを手伝っている。豚汁作りやおやつ作りの食事レクを開催し、利用者から好評を得ている。今後、ちらし寿司の出前を計画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて必要があれば栄養剤を飲んだり支援をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアをしキレイにし状態も観察しています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立できる場合はトイレを使用するよう支援しています。困難な方は時間を見てトイレ誘導をしています。	排泄チェック表に記録をつけ、個々の排泄パターンを把握し可能な限りトイレで排泄ができるように努めている。現在、事業所では、自らトイレに行ける利用者が、9名いる。オムツを使用している方は2名である。夜間は、身体状況や睡眠状況など個々の特性にあわせて支援している。ポータブルトイレを使用している方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動などで腹の動きの活性を促したりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のタイミングを配慮しながら一人ずつゆっくり入浴できるよう、支援しています。	入浴週2回を原則としている。各ユニットに左右にスライドする可動式浴槽を備えている。取り外しができるリフトを共用している。湯は毎回交換し、ヒートショック対策に浴室、脱衣所の暖房を活用している。同性介助にも対応している。入浴を好まない方には、声掛けの仕方や声掛けの職員を変えるなど工夫している。季節のゆず湯、しょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて休んだり安心してもらえるよう行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解して症状など観察しかかりつけ医や薬剤師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食事の準備、片付けなどご本人に合わせた役割、支援をしています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類になりご家族との外出の機会が増えました。散歩や外気浴を出来るだけ行っています。	天候に合わせて、車椅子の利用者も一緒に、事業所の玄関先や植栽等の緑があるスペースで外気浴をして季節感を味わっている。また玄関から事業所前の通りまでの長いアプローチを歩いて高台からの景色を楽しむ利用者もいる。ケア記録にご本人の表情や会話なども併せて記録している。家族とともに週1回、外出を楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はしていないが、本人が欲しいものなどがあれば使用可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を繋ぐようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱ないように配慮し清潔を保つよう、管理しています。	リビングは大きな窓があり採光もよく明るい。眩しい時はカーテンで明るさを調整している。室内温度管理は加湿器やエアコンなどを利用し心地よい環境作りに努めている。また換気を実施し感染症予防を行っている。掃除は夜間を中心に状況に応じ適宜行っている。季節感を感じて頂くためフロアに四季折々の装飾品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在ひとりになれる場所は居室のみになります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなど使い慣れているものをなるべく使用していただける工夫をしています。	居室にはベッド、布団一式、照明器具、エアコン、クローゼット、カーテン、チェスト、洗面台を備え付けている。利用者はなじみのある家具、家族の写真、椅子、人形、自身が作成した作品を持ち込んで、落ち着いた空間となっている。居室掃除、シーツ交換は職員と利用者が協力して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできることを活かすためにやってくれることは安全に配慮しながら行ってもらうようにしています。		

目標達成計画

事業所名 みんなの家・横浜三ツ沢公園

作成日 令和6年7月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との付き合い	地域の行事に参加、施設の行事に招待	積極的に地域情報の収集し関わりを作っていく	1年
2	15	管理者の同業者との交流を通じた向上	他施設の管理者との交流の機会を持つ	グループホームの交流会との参加	1年
3	17	日常的な外出支援	どの利用者様も外に出れる機会を作る。	ADLの低下により外出の機会が減ってしまうのでどのような形でも外に出て気分転換できるようにケアを行う。	1年
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。